

# 研究テーマ： リトミック 子どもの音楽表現

所属：保育科 氏名：佐々木 由喜子

## 研究の概要

リトミックは、スイスの作曲家で音楽教育家のエミール・ジャック＝ダルクローズ（Jaques-Dalcroze, Emile, 1865-1950）が創案した、身体運動を伴うリズムによる音楽教育法である。音楽と身体の動きを一致させるという試みは、聴感や触覚などの五感を刺激し筋肉の運動感覚と連携させることで、音楽による人間の脳への影響を予見した。現在では、音楽教育、音楽療法、演劇、舞踊、体操、発達支援など、認知機能の維持や回復や伸展、さらには非認知能力の育成に良い影響を与えるものとして注目が集まっている。

ダルクローズが活躍した20世紀初頭の欧米は、産業革命後であって、様々な身体表現教育の萌芽した時代である。その大きな潮流を担ったとされるリトミックの理念や教育法を、他の教育との比較に基づいて考察し、今日の表現教育への応用的な展開を研究している。

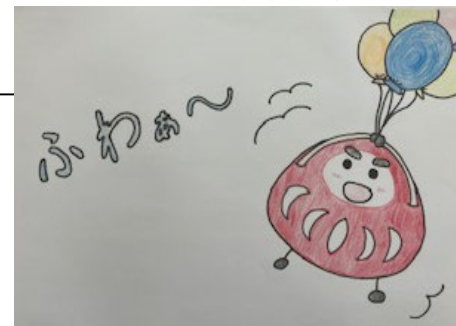
### 〈発表論文〉

- ・「リトミックにおける身体表現法に関する研究－20世紀前後の身体表現教育との比較を中心に－」（2016）
- ・「アッピアの演出理念とリトミックの理念の共通性に関する研究－アッピア『音楽とミザンセーヌ』（1898）の分析を通して－」（2017）



絵本（左）をモチーフにした表現のまとめとして、自分のイメージするだるまさん（右）を描いて表現する。  
左：『だるまさんが』（かがくいひろし/さく ブロンズ新社）

右：学生作品  
（「絵本の世界を遊ぶ」体験を通して育つもの 宮崎学園短期大学教育研究 第19号佐々木由喜子2023.3月より抜粋）



ペープサート「山の音楽家」  
学生作品2023

幼児期の表現活動には、発想の多様性や活動の連続性等を保証する柔軟さが必要である。保育内容「言葉・人間関係・環境・健康」そして「表現」の各領域をつなぐ実践を、音楽活動の視座から研究する。近年は音楽表現を補う教材（ペープサート等）の制作や、絵本をモチーフに、ごっこあそびや劇遊びのように即興的に表現し、みんなで一緒に考えつくる表現として、身体表現、音・音楽、そして造形へと展開していく実践に力を入れている。

遊ぶように表現する、遊ぶように音楽することを実践研究のテーマとしている。

### 〈発表論文〉

- ・「領域「表現」における即興表現の実践による考察－ことばと絵と音に着目して－」（2019）